

番号	1-2-3		表題	吾孀ポンプ所における各設備工事の施工事例	
内 容	<p>昭和16年に創設された吾孀ポンプ所は墨田区八広地区の雨水排除能力増強とあわせて老朽化対策を実施するため、平成19年度から施設及び設備の再構築を実施し、令和6年4月に稼働した。吾孀ポンプ所の再構築にあたり、平成元年に稼働した吾孀第二ポンプ所を活用することで既存施設の全面更新が実施され、旧中川の水質改善に向けた合流改善の対策として、雨水ポンプの後段に雨水貯留池（下水道施行令対応施設）も新たに整備された。設備工事は約18か月間の現場施工で工事を完了させたが、下水道施行令対応のため令和5年度の完成目標を厳守する必要があったことなど、様々な制約や条件がある中での施工となった。本稿ではこの際の工夫や対策を施工事例として報告する。</p> <p>(1) 複数工事の同時施工について</p> <p>設備工事が現場に着手した令和4年10月から、令和5年度末までの期間では、延べ11工事が場内で施工を行った。場内は狭隘であり、搬出入ゲートも限られていたため、施工エリアや搬出入経路で複数工事が競合する恐れがあった。これを回避するため、場内を細かく工区分けしたマップを作成し、これを基に、週に一度の定例会議にて日割りでの搬出入調整や施工エリア調整を行った。また、のちに現場入りする工事の工程や工法等を事前に確認し、これにあわせて施工フローを見直す等、主要な工程そのものを大きく変更することなどで競合を回避した。吾孀ポンプ所は民家に囲まれており、周辺道路も狭隘であった。設備工事による雨水ポンプなどの大型機器の搬入や、屋外での斫り作業により住民の生活への影響が懸念された。このため、地域町会と施工内容や騒音対策、搬出入経路や制限速度等の協定を結び、これを遵守した。また、工事のお知らせを近隣住民等に適時ポスティングすることで、作業音の発生や、工事車両の通行など、工事への理解と協力を得られるように努めた。受変電工事においては、設置した需要設備（特高受変電設備 22Kv）の使用前安全管理審査を受審する必要があり、受審の遅れや手戻りを避ける必要があった。このため、工事計画書の審査機関への事前提出や、使用前自主検査などを綿密にスケジューリングし、各検査項目を適切に実施したことで、予定通りに審査を終えることができた。</p>				
キーワード	創意工夫、吾孀ポンプ所、下水道施行令				
処理区名	砂町処理区	位置区分	吾孀ポンプ所		
職種区分	設備	施策区分	再構築		
状態区分			新規性	新規知見あり	
実施年度	令和5年度	全体期間	令和6年度		
担当部署	第一基幹施設再構築事務所 設備工事課				
発 表 履 歴	局内	令和6年度設計・工事事例発表会（カワセミ）			
	局外				
調査方法	直営調査				
関連情報					